#### ケータイ幽霊

羽生亜津子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

#### 注意事項

囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また

小説タイトル】

ケー タイ幽霊

【エーロス】

【作者名】

羽生亜津子

【あらすじ】

ね 現れた自称幽霊。 の目の前の人の3日前の出来事を見せてあげるよ。と突然文字上に のんきに電車や新幹線でケータイ小説を読むあなたの元にあんた 目的はなんなんだ?意味不明な説教に怒らないで

# 説教その壱 先入観には気をつけるんだよ

ごめんくださいましよ。

お初にお目にかかります。

私ほんの通りすがりの幽霊でございます。

ねえ、お前さん。

ちょっと、ちょっと他人事だと思って

見てんじゃないわよ!

あんたよ、あんた。

ボーっと電車に乗りながら

暇つぶしにケー タイ小説読んでる

そこのあんた。

ちょこっとあたしの話を

聞いてかないかい?

どうせ暇なんだろう。

騙されたと思ってさぁ、目の前の

モジャモジャ頭の外国人見ておくれよ。

あいつが3日前どこにいたか知りたくないかい?

今 別にって鼻で笑っただろう!

そんなことすると

たたっちゃうよー。

はあー。

少し前までは動画で写せたんだけどさ

ある時男の行動を女子高生に見せたのよ

そしたらあんた

男の浮気相手がその女子高生の母親でさー

その子ノイロー ゼになって自殺しちまってねぇ

世間は狭いというか

悪いことはできないもんだねぇ。

それ以来あの世で取締りが厳しくなってね あの世だって一応ルールみたいなもんは

あるんだよ。

あたし達だってただお遊びで

こんなことしてる訳じゃないんだ。

生きてる内にさ、 ぼんやりしてないで

やることどんどんやんないと

寿命はいつ尽きるか分かんない んだよ

って教えにきてるのさ

だからあんたもせっかく選ばれた

人間なんだからちゃんと頭使って

今から見る文字を

イメージしながら読むんだよ。

ほーら、3日前の電車の中。

出勤ラッシュで押しつぶされそうな

サラリーマンで押し合いへし合いしているのが

見えるだろう。

その先に段々見えてきたよ

周りより頭一つ小さいモジャモジャ頭の

外人がいるね。

彼の目の前にやたら色っぽい女が見えたかい ?

そうそう、グレーのスーツで髪の長い

胸の大きな年のころは25、 6かね。

なにやらよからぬことが起きていそうだよ

パキスタンから社会勉強に来ていた シュアワー

心臓が縮みあがっていた。

モハメッドは朝の殺人的なラッ

この電車に乗らなければ

仕事に行くことができない。

パキスタンでは資産家の息子で

親はいくつものアパートを経営し

かなり裕福な暮らしをしていたが

外国にでて見聞を広め

より良い国にする為に

はるか遠い裕福な国日本を選び

志高くやってきた・・・

というのは建前で

日本のアダルトビデオを毎日

見ているうちにあんなに可愛い

女の子と一度でいいから

付き合ってみたいと

下心丸出しでやって来たのだった。

ところが日本人の女は

やれイケ面だ、金持ちだ、高給取りだと

内面を見ようとはせず

まず、外側の輝かしい部分だけを追い求め

身長150センチで褐色の肌を持ち

水道橋博士のような禿でモジャモジャ 頭の

モハメッドには話しかけようともしなかった。

幼い頃からレベルの高い教育を受け

恵まれて育った為非常に穏やかで

慈悲深い彼の懐の深さを

誰一人として見ようとはしなかったのである。

モハメッドは日ごとに心が

ささくれ立っていくのを感じていた。

おまけにこのラッシュアワー。

とても人間の住むところでは

ないと、逃げ帰ろうと何度思ったか知れない。

しかし、国のために見聞を広げようと

意気揚々と出国した息子のために

貯金を半分も下ろして持たせてくれた

母の心を思うとそれもできず

ただ、砂を噛むような毎日を送っていた。

彼女が欲しい。彼女が欲しい。

それだけを念仏のように

心で唱えながらラッシュアワーをやり過ごす。

そんな時、何度か同じ車両に乗り合わせた

美しい女性に彼は心のときめきを

感じるようになっていた。

白く美しい肌。

ユリのような甘い香りのする

ロングヘアー。

沢山子供を生めそうな大きなお尻。

女神のような豊満なバスト

ハイヒー ルを履くと

見上げるほど大きな女は

小さな彼にとって

自由の女神のような大きな存在となっていった。

気が付くと彼女のそばに

近づいて、大きく深呼吸する癖がつき

それだけで息苦しい車内も

故郷の山で森林浴をしているような

清清しい気分になれたのだった。

今日も、いつものように目をつぶり

深呼吸する。

スウー ハアー。 スウー ハアー

ああ、だんだんと故郷の山が見えてくる。

スウーハアー。

その時

突然に腕を掴まれた。

急に現実に戻ると

彼の周りは込み合っていたはずなのに

彼をぐるりと取り囲むように

空白ができている。

????????

力強く掴まれた手は

目の前の女のものだった。

「な、なんでしょう」

「てめえ!毎日毎日人のお尻

触りながら悶えてんじゃねえよ!」

さ 触ってません。僕はあの あの

多分背が小さいのでこうやって

ポールを掴むとほら

丁度あなたの腰あたりに・・・」

じゃあ、なんでハーハー言ってんだよ」

「そそれは 息苦しくて・・」

真実など言っても余計疑われるだけだ。

女は凄い剣幕で電車が停車するや否や

モハメッドを引きずり出し

鉄道警察に突き出した。

もちろん警察でも

押し問答が続いたが

警察の方も彼の必死の弁明に

同情したようで、ヒステリーを起こす彼女を

なだめてくれて、これからは誤解のないよう

気をつけるという注意だけで

会社の人間が彼を引き取りに

きてくれたおかげで事なきを得た。

か、しかしそういった噂は

社内にもあっという間に広がり

程なくして辞表を提出した。居づらくなったモハメッドは

そう、それが3日前の話・・・。

どうだい?

日本に住む沢山の外国人はね

身なりが良くなかったり

カッコよくなかったり

肌の色が違うだけでね

多かれ少なかれ差別を受けているんだよ。

あんたも、これから世界に目を向けて生きようと

思うんだったらさ

先入観だけで人を判断したらいけないよ。

日本しか知らなくても生きてはいけるけどね

こごりきらい、聞よっごからな。外国に出たらあんたなんか何者でもない

ただの黄色い人間なんだからさ。

会社とか学歴とかの

看板に頼ってばかりじゃいけないよ。

あたしはそう思うんだけどね。

今となっては

姿もない訳だからねぇ・・・。

## 説教その弐(人生の分かれ道

ごめんくださいましよ。

お嬢さん

あんたですよ、ほら、今これを

長い爪でこんな小さいボタンを

ぽちぽち必死で押してるあんた。

今日の選ばれし栄誉を授かったことに

感謝おしよ。

あたしかい?

あたしはただの幽霊でございます。

名前なんてものは当の昔に

忘れちまったんだけどねえ。

それじゃあ具合が悪いって言うなら

お岩(とでも名乗っておくとしましょうか。

ほほっ。あたしも気が利いてるだろう。

分かりやすいなまえでさ

何?知らないだって?

本当に近頃の若いもんは・・・。

まあ

あたしの事はどうでもようござんす。

そんなことよりね、あんたの前の

ほら、顎がちょっとばかり

しゃくれてる、34,5の気の強そうな

女がいるでしょう。

あの人の3日前の様子

見てみたくはないかい?

遠慮は要らないよ。

何しろ無料だからね。

いまどき無料なんて気前のいい話

どこいったってないだろう?

騙されたと思ってさぁ、見てお行きよ。

だんだんその気になってきたようだね

それじゃあ、よーく頭を使って

見るんだよ。

漫画ばかりじゃダメだよ。

たまには想像することしないとね。

だんだん脳が退化していくからね。

それじゃあ、意識を集中して・・・

デパートの化粧品売り場が見えてきたよ。

化粧品の匂いと、白いライトに照らされた

白塗りのお化けみたいな

女の顔が見えてきたよ。

お化けのあたしが言うのもなんだけどね。

どうやら相当厳しいようだね。

若手がびくびくしているよ・・・。

クワバラクワバラ

シー ズンごとに沢山のプロモーションに

追われている美容部員達は

次々に発表される新シリー ズに

頭を悩ませていた。

興味の無いものにとっては

どれも同じじゃないかと思われる

美容液一つにとっても

毎年の流行に乗せて

やれ美白だ、やれしわ取りだと

ファッション雑誌ははやしたて

購買意欲をかきたてる。

売り上げナンバーワンを誇る

ここ新宿丸丸デパート化粧品売り場は

美容部員にとって最高峰の職場だった。

派手な広告で知名度を上げ

お客様への説明や、きめ細かいサービスで

一つでも多くの売り上げをあげようという

他社との競争は凄まじいものがある。

そしてなにより

女の園という特殊な環境は

完全なる縦社会で

チーフの意見は絶対であり

自由な空気などどこにもなく

若手社員は自分の仕事を誇りに思いながらも

緊張続きで

疲れきっていた。

そんな中勤続10年になる横山みどりは

去年から売り場のサブ責任者となり

売り上げの向上はもちろん

新人の教育から、顧客のデータ管理まで

全てをパーフェクトにこなす

頼もしい存在で

チーフからも同僚からも

好かれていたので

忙しいながらも

充実した毎日を送っていた。

しかし、誰にも知られていないが

今年の末には長年付き合った

幼馴染との結婚が決まっており

公私共に順風満帆なはずの彼女にも

最近心穏やかにはいられない

悩み事があった。

同じフロアー の宝石売り場に

新しく移動になって入ってきた

佐藤剛司という彼女よりも5歳も若い

男に社員食堂で声をかけられ

まだ知り合いもいない男と

近所の美味しい店の話をするうちに

今度一緒にランチでも行こうと

いう話になり

何度か共に食事をするようになった。

最初こそ5歳も若い男と

二人きりで何を話せばよいのかと

戸惑っていたのだが

男はそんなことはお構いなしに

毎回仕事熱心な彼女を賞賛し、

いつかは自分で商売するつもりだと

決して夢物語ではない計画を

熱く語って

今はまだガキだけど・・・と

照れたように笑った。

回数を重ねるにつれ

押しの強い男の若さが婚約者にはない

逞しさのように感じられ

結局先週の休みの前日

いつものように飲みに行った帰り道

求められるまま男の家に行き

そのまま、 なるようになってしまったのである。

それからというもの

男は毎日彼女を求め

気を許した女もまた男を求めた。

明日の休みは婚約者と一緒に

式場を下見に行く予定に

なっているのに

心は揺れて迷ってい る。

このまま結婚する?

そうよ、 何事も無かったようにすれば

あの人はいつも私のそばにいて

つまらない仕事の悩みも真剣に聞いてくれたじゃな

ιį

でも・・こんなに激しい気持ちで人を思ったことないじゃ

それにこんなに強く求められたことが

今まであった?

安定をとるか、心の赴くままに行動するか

35歳という微妙な年頃

人生を大きく左右する決断に

ただタメ息をつくばかりで

気乗りしないまま接客についた。

「お客様。 本日はどういっ たものをお探しですか」

40過ぎかと思われる

たいして美しくもない女が必死の形相で

サンプルの瓶を見ている。

えっと、 その、 この前雑誌で見た

リンクルケアーの美容液使ってみたい んですけど

っ は い。 こちらでございますね。

そう言って、 棚の中に山積みされた

新商品を目の前に取り出す。

一本10万もする美容液は

最近の高級化粧品の中でも

特に人気があり、 高価な品にもかかわらず

べき売りあげ の伸びをみせている

### 自慢の商品だ。

- これです。 これ、 本当に効果あります?」
- 「もちろんです。当社の研究所で
- 3年の歳月をかけて作られた貴重な商品です。
- その証拠に今月に入ってからすでに50本以上 一度使っただけでも目に見えて違いが分かります。
- もっている。いですのよ。
- 売れているんですのよ。
- 次の日のお顔の張りを見ていただければ
- 決してお高いものではないと思いますが。
- 「そうですか・・・一度で効果が・・・
- 後もう一押し。
- 「こちらだけでももちろん効果は充分ですが
- お客様のお肌の状態を拝見いたしますと
- 大分乾燥がひどいようですわね。
- よろしかったら、同じシリー ズの
- 基礎化粧のサンプルもお使いになっ てみません?」
- 思いつめた顔の女は決心したように

### 顔を上げると

- 分かりました。これいただきます。
- それから、基礎化粧一式も全部ください」
- 「サンプルですか?」
- 「いいえ、全部買います。」
- はい。ありがとうございます。こちらの商品
- お使いになったことはございます?」
- いいえ、でも効果あるんでしょ?」
- シリーズでお使いになれば更に効果的かと
- 大丈夫今まで化粧品でトラブル
- 起こしたことはないですから」
- いただきます」はい。かしこまりました。すぐにご用意させて

一気に20万近くを買い上げた初めての客を

注意深く見てみると

どうということはない格好からは

不釣合いな美しい輝きの

ダイヤの指輪が左手の薬指に光っている。

つい見とれていると

恥らうように左手の指輪を

触りながら女は言った。

「ふふ、綺麗でしょう。この年まで独身でいて 良かったわ。 先月彼にプレゼントしてもらったの」

そうですか。羨ましいですわ」

私よりうんと若くて、 素敵なの。不釣合いかなって

拒んでたんだけど・・・。 結婚することにしたのよ」

「よろしいじゃありませんか。 人生は一度きりですもの

そう言って微笑むと

彼女は小声で耳打ちをする

「 あそこのジュエリー ショップ見えるでしょう

彼あそこで働いてるの。」

そういって指差す先は佐藤の働く

ショップだった。

まさかね・・・

一瞬胸がちくりとする。

最近ここに移動になって、 私も何度か来てるうちにね

若い男と一緒になるなら、 もっと綺麗にならないとって

ランジェリーとか洋服とか揃えてるの

今日は最近皺が気になるから雑誌で見た美容液買おうかな

って寄ってみたんだけど、良かったわ

親切にいろいろ紹介してくださってありがとう」

失礼ですが最近移動になったっておっしゃ いますと

胸の鼓動が激しくなり

堪らず聞くと

「そう。一番若い彼よ

あなた佐藤をご存知?」

佐藤という名前を聞いた瞬間

目の前が真っ暗になった。

「え ええ。時々社員食堂でお会いしますから 挨拶程度ですけどそうですかー。 あの佐藤さんと

・そうなの。彼いい男でしょう。

私彼の前の職場の経理をしていたんですけどね

自分の店を持つのが夢だとか言って

私の仕事までよく手伝ってくれたんですよ

だから私もいろいろ彼に教えてあげて

まさかこんなオバサン相手に

本気になるなんて思わないから

ずいぶん厳しく指導しましたよ・・・」

そう言って優しく微笑む女は

いつまでも指輪を大事そうに触れていた。

なあんだ。

ふっと笑いがこみ上げてくる。

危ないところだった。

男のことを何も知らず

一時の感情に流されて

本当に大事なものを失うところだった。

佐藤がどんなつもりで

みどりを抱いたのかは分からない。

けれど目の前の女は

今こんなに幸せそうな顔で笑っている。

それでいいじゃないか・・・。

婚約者も私のことを誰かに話すとき

幸せそうな顔をするのだろうか

私は・・・

多分幸せな顔をするだろう。

先のことは分からない

でも、あの人を失わずに済んだことを

今は心から良かったと

思っている。

どうだい?

目の前のあの女は手に沢山の

ウエディング関連のパンフレットを持って

穏やかな顔で座っているだろう。

だけどね、ここだけの話

今後もいろんなことが起きるんだ。

自分のことだけを愛し続けると

信じている婚約者がね

結婚して何年もしないうちに

浮気をするんだよ。

彼女はそれはそれは苦しんで

それを忘れようと熱心に仕事に励む

すると不不思議なもんでね

そんな彼女の胸の内のことなんか

誰も知らずに、熱心に働く姿勢だけが

認められてね

チーフに昇格するのさ。

そりゃ 気分がいいよ

女の園の親分だからね。

皆に尊敬されて、神様みたいに崇められて

無くしかけてた自信を取り戻すとね

また言い寄ってくる男が出来る。

そこでまた人生の分かれ道よ。

そこから先は秘密だけどさ

あんたも若いからって

ぼんやりしてたらいけないよ。

生きていれば何度だって

こうして選択を迫られる場面が訪れるんだよ。

どちらに転ぶかは自分次第。

選んだ道が正しいかどうかも

わからない・・・。

それでも決めなきゃ前に進めないんだからねぇ。

難儀なことよ。

悪いことが起きてもそのあとには

いい事も待ってる。

そうして寿命が尽きるその日まで

戦いは続くのさ

笑っても人生泣いても人生

どう過ごすかは自分次第なんだよ・・・。

いいかい 悪いこといわないからさ

あんたの今の男は止めといたほうがいいよ。

どう してもって言うならとめやしな けどね

貧乏くじ引いても

それをハズレだと気付かなけりゃ

幸せなのかも知れないからねぇ・・・。

それじゃあ

あたしはこの辺で失礼するよ。

これでもいろいろ野暮用があってさ

しいんだよ。

# PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 などー 行し、 公開できるように 小説家になろうの子サイ ています。 部を除きインター 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 の縦書き小説 そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 堪たD 能のF ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 は 2 0 存書籍 の タイ いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n4706c/

ケータイ幽霊

2010年11月19日08時31分発行